

**事業所名** 新賀認知症対応型共同生活介護事業所

日付 平成18年3月17日  
**特定非営利活動法人**  
**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験14年、家族の会代表経験7年  
 評価調査員 在宅介護経験9年、

**自主評価結果を見る**

**評価項目の内容を見る**

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)**

**外部評価の結果**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

玄関を入ると下駄箱の上に雛人形が飾ってあり、春の到来をしのばせている。年配の職員が筆筒の肥やしにするよりも此処へと持って来たものだそう。室内の飾りつけは、植栽を巧みに配し絵手紙風の書画や絵等が、品良く掲示されている。

居間に入ると九十歳代の二人の利用者が、さやえんどうの筋を取りながら昼餼の準備に協力していた。看護師の主任が巻き寿司を巻きながら、話し声を行き交わせて作業を続けている。この主任の後ろ姿を見てその一人が「エプロンの紐が解けているよ。こっちは来られー」と言って結んでいる。このように利用者との距離が隔てなく近い感じが漂っている。

開設7年目という歴史を刻みながら、当初からの入所者が6名も残っている事にも見られるように、心身ともに安定して落ち着いた生活に留意してきた実績が窺われる。この時間経緯から自立完全歩行可能者は2名になっておりながら、殆んどの利用者のコミュニケーションレベルが余り落ちていない事をも、日頃の「声かけ」「寄り添い」の不断のケアの結果が反映しているようだ。

また、この1年の経緯を見ても、職員の移動は1人のお産休職だけで殆んど変化がない安定した環境にあることも、利用者には嬉しい事だろう。20から50歳代までのバランスの取れた構成で、夫々が自然体での就業姿勢である。

巻き寿司に大根・海老団子・さやえんどうの炊き合わせ、それに茶碗蒸しという絶妙の組合わせの昼食。それに加えて夫々が絶品の味付けであることに感服した。かけがえのない美味しい昼餼は、生活文化の高い水準を偲ばせるもので、幸せ感をもたらしてくれる家の印象。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

日本のグループホームの一つのあり方の典型を実績として創造してきている典型の一つを見る思いである。「一人ひとりの人間性を大事にし、個々人にあった生活の実現」の理念の構築や、それに向けての職員の研修と実践を着実に積み上げてきた集積が窺え、学ぶべき教材があるホームといえよう。一つだけ欲を言えば、多様な生活の様子を家族に伝える「ホーム便り」を定期化して作ってあげれば、家族の交流促進になると共に、それ自身がホームの歴史資料にもなるであろうと思った。

創生期のホームであった制約から、やや居間の台所部分の配膳スペースが作業中に窮屈そうに見える点が気になった。また、利用者の身体的重症化による入浴介助の負荷が大きくなっている点から、幸い1階・2階とある二つある内の一つの風呂を介助しやすい風呂に改修してはどうであろう。

**I 運営理念**

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b> グループホームとしてめざしているものは何か			
認知症になっても「その人らしく、最後まで生活を大切にしておく」、ケアを実践している事が伝わってくる。この事業体グループでは、認知症ケアのあり方を現状に甘んじず、新しいケアのあるべき姿を夫々のチームが模索しようとしている。その実践のベースに、職員研修が重視されている。 ただ、このホームは職員が余り肩に力を入れず、日常の自然体の生活を大事にしている点が素晴らしいと感じられた。			

**生活空間づくり**

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b> 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か			
総2階建ての普通の民家風のホームで、玄関・リビング・各部屋に広い窓があって開放感を感じさせる。各部屋にトイレが設置されているので、プライバシーの尊重が図られると共に、介助者の負担も少なくなるよう配慮されている。部屋の飾りつけは、適度な植栽や書画を配して棲んでいる人のセンスの良さを感じさせる家の雰囲気である。 夫々の部屋も自分の使い慣れた筆筒や鏡等が整理されていて、自分の居場所として独自の空間を作っている。家族が持って来たばかりという生け花が活けてある部屋もあるのが眼をひいた。			

**ケアサービス**

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

**III ケアサービス(つづき)**

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b> 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か			
個々人のその人なりを尊重してのケア原則がこの法人では早くから取り組まれている。それは、ケアプランの策定過程や日常の認知症の人への関わり方に関する研修の重要性に着目し、介護者の人的資源の向上に留意している事がよく理解出来るケア姿勢である。 業務に追われて、あくせとした印象が見られず、ゆったりとした生活ぶりながら、肝心の排泄ケアの声かけのタイミングは的確である。 若い職員がおとなしい印象であるが、もう少し元気な個性の地を出しても良いのかなァ…と感じた点もある。 3年前に看取りを終えた家族が、今でもこのホームにお世話になった名残をしのいで、よく訪問してくるところにも、このホームの暖かさが伝わってくる。			

**IV 運営体制**

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b> サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。			
認知症ケアについて先駆的役割を担う法人にあって、初期のホームとしての役割を果たしてきている。高いケア水準の開発とその定着が窺われるが、それに安住した雰囲気がないのが素晴らしい点でもある。法人幹部からは、新しいケア手法へのチャレンジ課題が提起されているとのことで、更なる地平をじっくりと切り開こうとしていることが伝わってくる。このホームとしては、全面的な自立歩行可能者が2名という状況の中での身体的ケアの対応と、そうした状況下での心理ケアとのバランスの調和が現実の課題となりつつある段階であるように見受けられた。			